

加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区における 散策コースマップ作成および、拠点の整備

指導教員 石川工業高等専門学校 建築学科 教授 道地慶子

参加学生 中根諒・青崎杏奈・荒井美咲・大勝友貴・中倉萌々子・東篤志・
石塚奨河・佐々木玲・坪田咲

1. 調査研究成果要約

伝建地区指定以降の当該地域への来訪者増加を見据え、また、地域を広く知ってもらうために、地域の魅力向上活動を継続して行った。今年度は、実際に施工した場所の維持・管理や、さらにこの地域の回遊性を高めるための取り組みを行った。計画を行っている場所は緑豊かでその自然に対し、維持・管理を行うことの難しさや、実際に使用される際のことを常に考えることの大切さを学ぶことができた。

2. 調査研究の目的

伝統的な山村集落や周辺環境が色濃く残る加賀東谷地区は、平成 23 年に「伝統的建造物群保存地区」に指定された。しかし、過疎化・高齢化の進んでいる限界集落でもあり、伝建地区指定以降の交流人口増加への対応や、観光資源の維持などは、地域住民だけでは困難な状況にある。そこで、荒谷・今立・大土・杉水の 4 つの集落の回遊性を高め、来訪者にとっての魅力を更に高めるよう、拠点施設と地区内の散策路の整備を地域住民・行政・学校の 3 者共同によりおこない、将来的には住民を主体としたまちづくり活動の実施を目指す活動を行う。また、地区内の魅力向上を図るとともに、かつてから培われてきた里山ならではの、風情ある景観の保全活動も同時に進める必要がある。最終的には U ターンや、I ターンによる定住人口の増加を図り、地域の活性化につながることを目的とする。

3. 調査研究の内容

表 1 年間活動スケジュール

日時	内容	日時	内容
3月 23・24日	「新保の池」ベンチ制作	10月 8日	散策経路および資源調査・周辺整備
4月 19日	「新保の池」整備・ベンチ設置①	10月 14・15日	JUDI 都市環境デザイン会議全国大会
4月 28日	全国伝建協加賀市大会の打ち合わせ	10月 20日	提案会議
5月 17日	「新保の池」整備・ベンチ設置②	11月 13日	「新保の池」整備・広場測量
5月 25～27日	全国伝建協加賀市大会（三日間）	1月 31日	今年度の活動のまとめ・会議
7月 12日	「新保の池」整備	2月 18日	成果報告会
7月 22日	提案会議	3月中旬	次年度へ向けての活動計画会議
8月 18日	「新保の池」整備・地域住民と会議		

主な活動内容として、東谷の発祥の地と言われる「新保の池」の保全活動および、隣接する休憩広場を整備し、前年度に作製したベンチの設置を行う。またその他に、4集落の回遊性を高めるため眺望を伴う修景と散策路の提案および案内サイン・誘導サインのデザインの協議を行う。それに伴い地区内の駐車場兼休憩所である「あいおすふれあい広場」横の空き地の活用についての検討を行う。

平成 28 年度は、悪天候などによる大きな予定変更や中止はなく予定通り計画を進めることができた。

その中でしっかりしたスケジュールの組み立ておよび、3 研究室間での連絡がスムーズに行えた。

この事業は、平成 25 年度「地域貢献型学生プロジェクト推進事業」として金沢工業大学・谷研究室、金沢美術工芸大学・鏑研究室の 3 研究室協同で行ったものの継続事業である。平成 27 年度は「全国伝建協加賀市大会に向けた散策拠点の整備」として、東谷の景観を保全する整備を行うとともに地域活性化につながる活動に取り組んだ。平成 28 年度は実際に「全国伝建協加賀市大会」にてプレゼンを行い、さらに、昨年度から継続している「新保の池」の整備や、「あいおすふれあい広場」横の空き地の活用について協議し、また、「散策マップ」の提案を行った。

1) 「新保の池」の整備

加賀東谷発祥の地といわれている「新保の池」は地域にとってとても重要な観光資源である。さらに、「新保の池」周辺には旧道が張り巡らされており、池への動線の一部として整えることで地域内の回遊性の向上を目指し整備を行った。

前年度までに整備した場所の維持・管理を継続して行った。具体的には、除草作業や歩道の木チップの敷き詰め、地面に埋まるごみや瓦などの撤去、その後地域住民や加賀市役所の方との会議、「新保の池」に隣接する休憩広場に設置するベンチを製作し、実際に取り付ける作業を行った。

加えて、現在、地域住民に親しみやすいこの場所の名称を以下の候補を挙げ検討中である。

【現在挙げられている「新保の池」に隣接する休憩広場の名前（案）】

- ・「新保の池公園」
- ・「はじまりの広場」
- ・「新保の池 憩いの場」
- ・「新保の語り場」



図 1. ごみの撤去作業



図 2. 整備後の地域住民との会議



図 3. ベンチ設置後の様子

2) 「あいおすふれあい広場」横の空き地の活用

今立地区の入り口に NPO 法人が運営している無料休憩所があり、そこには一般車両 10 台、障害者用車両 2 台の駐車スペースがあり、今立地区を訪れた際の駐車場となっている。その敷地内には休憩所も設けられており、今立地区の来訪者だけでなく普段は近隣の地域住民も利用している。

その周辺にはおよそ 130 m²の空き地があり、「新保の池」の整備の際に、空き地活用のための現地調査を進めてきた。今年度は、その場所を訪れる外部の方、地域住民の双方に目を向けた、親しみのある新しい広場のデザイン案を考え、協議した。次年度以降も計画を進め、将来的には「新保の池」に隣接する休憩場所としての実現を予定している。



図 4. 現地測量の様子

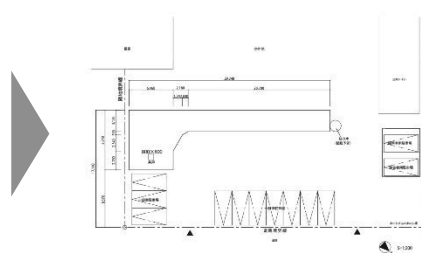


図 5. 測量図

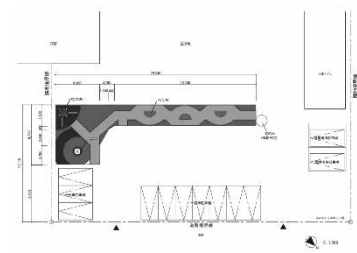


図 6. 空き地デザイン（案）

空き地デザインの案に対して 3 研究室合同会議で指摘された修正点・検討事項を以下に示す。

1. 周辺景観との関連性を持たせる
2. 使用目的をしっかりと持ち、実際に作られることを思い浮かべて計画する
3. 似た案を考えるのではなく、全く違う視点からのデザインを提案する
4. 植える樹種を検討する

3) 加賀東谷今立地区「散策マップ」の作成

加賀東谷今立地区は、「新保の池」だけでなく、今立地区を東西に流れる「動橋川」や古くより「産土神」と祀られている「白山神社」など、貴重な観光資源が数多く存在し、それらを散策する際に使用するマップ（案）を作成した。加賀東谷今立地区の概要と、散策する場所の位置情報や休憩所の場所がアイコンで示されている。加賀東谷のイメージカラーである緑を基調とし、それぞれの場所の写真や、その場所に関するコメントを添え、どの場所にどんなものがあるかを明確に伝えられるよう作成した。完成品は、冊子にして「あいおすふれあい広場」に置くことを想定している。

【実際に散策するコース】

- ①出発地点：「あいおすふれあい広場」（地区内の駐車場兼休憩所）
- ②赤瓦屋根が連なる眺望
- ③「動橋川」
- ④東谷の山々を一望
- ⑤「辻政信邸」
- ⑥「新保の池」
- ⑦「白山神社」
- ⑧伝統的な古民家が立ち並ぶ通り「古民家通り」
- ⑨到着地点：「あいおすふれあい広場」



図 7. 加賀東谷今立地区「散策マップ」(案)

4) 「第 38 回全国伝統的建造物群保存地区協議会加賀市大会」へ学生スタッフとしての参加

平成 28 年 5 月 25、26、27 日の 3 日間同じ加賀市内の伝建地区「橋立」にて、「第 38 回 全国伝統的建造物保存地区協議会加賀市大会」が行われた。そこで、学生たちが今まで行ってきた活動をまとめたパネルを用いて全国の重伝建地区から集まった同じようにまちづくり活動を行っている人たちや、地元住民、市役所の方などに向けて説明を行った。改めて自分たちが行ってきた活動を再確認することができ、さらに活動への理解が深まった。説明に対しては、質問や意見などが多数上げられ、今後の活動の手がかりとなる事がたくさんあり、それらの貴重な意見を今後生かして行こうと考えている。



図 8. 全国伝建協加賀市大会にて説明する

4. 調査研究の成果

現在の加賀東谷地区では、平成 23 年に伝建地区に指定されてから以降、来訪者増加に対する観光の拠点が無いことが課題として挙げられ、前年度に引き続き今年度もその課題に対する活動に取り組んできた。前年度は拠点となる整備となる「新保の池」の整備を、「計画」という段階から「施工・制作」といった段階にまで進めた。そのため、今年度は回遊性を高める周辺のマップ作成および、空き地のデザインの計画という、新しい活動に着手した。しかし、現地までの移動距離が遠いこともあり、現地での調査不備や、不足が見つかったりもすぐに細かな調整や解決することができないことが課題である。また、毎年課題として挙がっているが、今まで行ってきたものを引き継ぐことの難しさや計画段階での確実性、想像力が欠けている事を改めて学び、実感することができた。

加賀東谷今立地区は、冬季の降雪量が多量なため、冬には整備を行うことが困難で実際に整備、施工する際は、時期が限定される。次年度もしっかりと計画し、少しでも施工に取り掛かれるよう活動していく必要がある。

【来年度以降に検討するおもな課題】

- ・ 散策路の提案および案内サイン・誘導サインのデザインの協議する
- ・ パンフレットを地区内の各拠点だけでなく周辺施設にも配布する
- ・ 「土産づくり」として東谷の特産物を各拠点におけるように実施する
- ・ 杉水の「リバーパーク」構想に着手する

5. 来年度の調査研究計画

来年度は引き続き加賀東谷今立地区「散策マップ」の加筆・修正、「あいおすふれあい広場」横の空き地の計画を中心に進めていく予定である。「散策マップ」完成以降、加賀市内の伝建地区「橋立」と連携して、市民対象のウォーキングツアーを企画・実施し、加賀の魅力をより発信できるようなプロジェクトとして地域活性化活動も継続して行う。さらに、活動を杉水地区にも広げ、「リバーパーク」構想を実現させたい。

以上のことを踏まえ、来年度もより、地域住民・行政・学校の 3 者協同の活動を活性化させ、「東谷」と「橋立」との連携により、加賀市全体の活性化を期待し活動を継続する。

6. 地域活動に対する地域からのコメント

「新保の池」周辺の整備に行くたびに、地域住民や、加賀市役所の方と交流する機会があった。「学生と連携してこのように地域が住みやすくなっていくことはとてもいいことだ」と言っていただき、限界集落はさらに過疎化や高齢化が進んでいるが、学生がこのように元気を与えられている事が実感でき、とてもうれしく思った。

また、8月18日に行われた整備後の地域住民や加賀市役所の方との会議では、「手入れや、管理が容易にできるものがよい」「あまり手のかからない材料でベンチや看板を製作してほしい」などの要望もあり、これから計画するものの素材選びなどに生かしていこうと思う。これからも、学生が地域住民の元気の源になり、サポートし、より加賀市全体が活性化することを期待して、これからの活動を続けていく。